



関東工場のピオトープ見学

地球に 笑顔

環境負荷の低減に積極的に取り組み、
未来の笑顔を守ります



グループ全体で環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、豊かな地球環境と未来の笑顔を守ります。

主な取り組み

環境対応の推進

- 地球温暖化対策
- 海洋資源の保全
- 水資源の保全

地球への取り組みの詳細につきましては、
下記アドレスからご覧いただけます。

<https://www.maruchan.co.jp/csr/environment/index.html>

環境対応の推進

東洋水産グループでは、事業活動による環境負荷を低減するため、第三者機関による認証取得や環境価値を考慮した取り組みの推進など、環境を保全するための仕組みを構築しています。

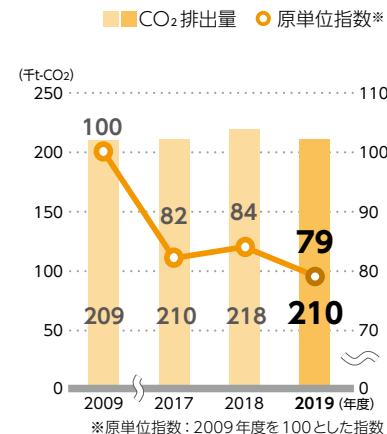
地球温暖化対策

地球温暖化に関連する環境負荷の低減に向け、生産活動だけではなく、資材調達や物流においても使用資材の減量やCO₂排出量の削減など継続的に取り組みを実施しています。また、工場では、発生した食品残渣の肥料化や飼料化、冷蔵倉庫ではフロンガスの漏洩量の削減に向けた取り組みや使用済みの包材の有価物化などを進めています。新規施設の設計、建設にあたっては、稼働後の環境への影響も配慮しています。



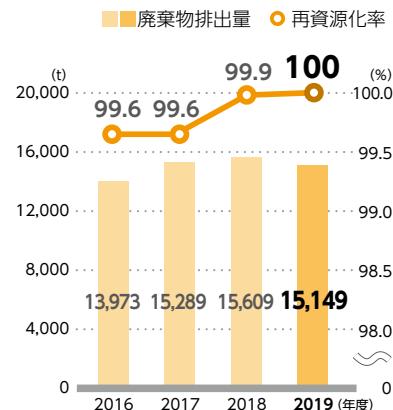
建物全体の設備に省エネルギー対策が施されている総合研究所

▼ CO₂排出量と売上高原単位



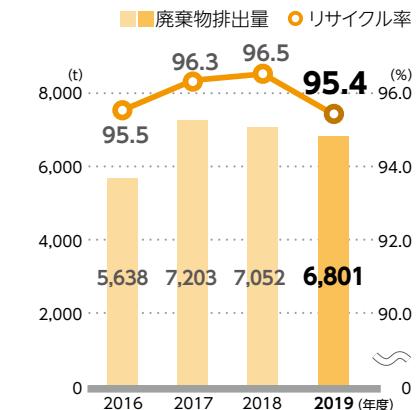
省エネへの取り組み推進や再生可能エネルギーの利用拡大、およびフロン漏洩削減に伴い減少し、原単位も改善されました。

▼ 産業廃棄物排出量と再資源化率



歩留り向上や有価物化推進、および排水処理の見直しなどにより減少し、再資源化率は100%を達成しました。

▼ 食品廃棄物の排出量とリサイクル率 (東洋水産(株)単体)



工場での製造トラブル削減や処理方法変更に取り組んだ結果、昨年度の排出量は減少し、リサイクル率は法令に基づく目標値95%以上を継続しています。

海外での環境に配慮した商品の開発

米国では、日本で開発された技術を使用したノンフライ麺商品「GOLDシリーズ」など、現地の消費者にとって新たな体験となりうる食文化の提供に加え、環境に配慮し、脱プラスチック容器使用商品として、紙カップを使用した縦型のカップ麺商品「SELECTシリーズ」の製造を2019年10月より開始しています。「SELECTシリーズ」では、沸騰したお湯での調理だけでなく電子レンジでも調理が可能な商品となっています。



INSTANT LUNCH SELECT シリーズ

化石燃料使用量の削減への取り組み

効率よく商品を輸送することで、化石燃料の使用量を削減し、CO₂ガス排出による環境への負荷を低減するために、納品日の前々日までに物流企業に業務発注を行う取り組みやモーダルシフトの推進、個建配送から車建配送(チャーター便)への変更に取り組んでいます。



出荷の様子

CO₂削減への取り組み

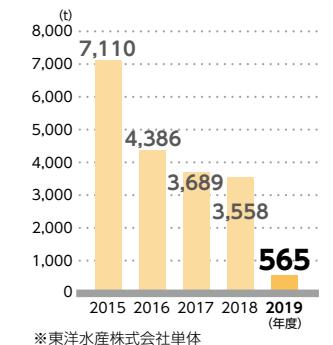
関東工場やフクシマフーズ(株)では太陽光発電による電力を使用し、八戸東洋(株)では工場でのフリーズドライ用冷却設備を、温室効果の大きいフロン冷媒から自然冷媒(アンモニア・CO₂)へ切り替えを進めるなどCO₂の削減に努めています。また、伊万里東洋(株)では、グリーン電力*の使用や、ボイラー燃料の重油からガスへの切り替えなどにより、大幅なCO₂排出の削減を行いました。

*グリーン電力:太陽光、風力、バイオマスなど、自然を利用した「再生可能エネルギー」でつた電気のことをいいます。

フロン漏洩量削減への取り組み

冷蔵倉庫事業においては、温室効果の大きいフロン冷媒から温室効果への影響が比較的少ない自然冷媒(アンモニア・CO₂)への切り替えを進めています。2019年度は、城南島冷蔵庫・舞洲冷蔵庫・伊万里東洋(株)の設備の交換を行いました。点検強化や自然冷媒機器の導入を推進し、昨年度は東洋水産(株)単体において、国への報告基準(CO₂換算千トン)を下回りました。

▼フロン漏洩量推移(CO₂換算)



海洋資源の保全

当社創業の事業として始まり、現在も水産食品事業を手がける当社において海洋資源の保全は重要な使命の一つだと考えています。

水産エコラベルへの取り組み

水産資源保全と海洋環境保全を目的として漁業管理されたMSC認証原料・ASC認証原料を取り扱っています。2006年に日本で最初にイクラ・筋子商品においてMSC-CoC認証を取得した後、鮭や辛子明太子へ魚種認証を広げています。現在は養殖漁業管理の認証基準であるASC認証を一部の魚種で取得しました。

稚魚放流活動

1996年より田子工場周辺の海で、水産資源の保護・育成と水産業や観光業における地域活性化の一助となることを目的として、稚魚放流活動を行っています。これまでにカサゴやヒラメなど、約40万匹の稚魚を放流してきました。2019年度は近隣住民の皆さんや西伊豆町の幼稚園・保育園の5才児24人にご参加いただき、穏やかな天候の中、カサゴなどの稚魚を海に放ちました。放流に先立ち、園児には田子工場で製造している「かつお節について」と、静岡県水産・海洋技術研究所の方から「カサゴについて」の食育講座を受けていただきました。



西伊豆町での稚魚放流の様子

水資源の保全

関東工場やユタカフーズ(株)など東洋水産グループの各工場では、工場からの排水を微生物処理により浄化して排出しています。埼玉工場では設備の運用方法の改善により、生態系への影響が無いよう排水の温度を下げるなどして、環境への負荷を小さくしています。また、関西工場と相模工場では2019年度に新規の排水処理施設を設置することによってさらに浄化能力を高めています。埼玉工場や相模工場では、排水中の麺やスープの成分を分解し、自社で肥料化する取り組みを行っています。水資源の使用量の削減として、関東工場では雨水を工場のトイレに利用することで、上水の使用を削減しています。



関東工場の浄化設備